

創立 60 周年記念誌

-2024-

持続可能な社会をめざして

公益社団法人 兵庫県建築士会

加古川支部

目 次

○ あいさつ			
公益社団法人 兵庫県建築士会	加古川支部長	小西 敏文	・・・1
○ 祝 辞			
公益社団法人 兵庫県建築士会	会 長	正木 恵子	・・・2
兵庫県東播磨県民局	局 長	野北 浩三	・・・3
加古川市	市 長	岡田 康裕	・・・4
高 砂 市	市 長	都倉 達殊	・・・5
稲 美 町	町 長	中山 哲郎	・・・6
播 磨 町	町 長	佐伯 謙作	・・・7
一般社団法人 兵庫県建設業協会	加印支部長	山本 貴弘	・・・8
一般社団法人 兵庫県建築士事務所協会	加古川支部長	山本 和久	・・・9
○ 記念式典			
式次第 (来賓 会員表彰)			・・・10
○ 記念式典を終えて	副支部長	吉備 考司	・・・13
○ 特別講演会(SDG s 講演会)報告		有田 和人	・・・14
○ 特別講演会を開催して	副支部長	坂上 浩司	・・・16
○ 支部創立 60 周年、想う事	兵庫県建築士会 前会長	宮宅 勇二	・・・18
○ 記念懇親会を終えて	副支部長	長尾 淳一	・・・19
○ 支部活動 10 年の歩み			・・・22
{	第 20 代	島崎 淳二	・・・26
・各年度の活動・役員名簿	第 21 代	竹下 孝行	・・・27
・歴代青年部会長メッセージ	第 22 代	阪口 晴彦	・・・32
}	第 23 代	杉山 和馬	・・・33
	第 24 代	金尾 祥吾	・・・36
○ 会員設計施設見学会報告			
2019 年 斑鳩寺庫裏保存修理 設計：尾瀬 耕司		永井 英三	・・・38
2020 年 南宗寺門徒会館・納骨堂 設計：古田 充		増田 正幸	・・・40
○ リモート併用研修会報告			
2022 年 省エネ法講習会	研修委員長	林 友 宏	・・・41
○ 地域貢献活動報告			
2023 年 東屋屋根葺き替え事業報告		永田 康貴	・・・42
		古田 晃久	・・・43
2024 年 能登半島地震被災地支援ほか		森 翔 太	・・・44
(資 料 編)			・・・45
○ 支部規約等			・・・46
○ 支部会員名簿ほか			・・・52
○ 編集後記			・・・56

その先の未来に向かって

公益社団法人 兵庫県建築士会
加古川支部 支部長 小西 敏文



加古川支部は、創立 60 周年を迎えました。この節目の年を迎えることができたのも、多くの方々のご支援によるものと深く感謝申し上げます。そしてなにより諸先輩方の熱い思いが、現在の我々の活動の礎となっていることを忘れてはなりません。本支部は、1964 年（昭和 39 年）6 月 20 日に設立されて以来、東播磨地域の 2 市 2 町の建築士たちが集い、様々な活動を通じて、地域社会に貢献する場として成長してまいりました。

60 周年を迎え、私たちの仕事、建築について改めて考えてみたいと思います。私たちの周りには、住宅に学校、医療施設、スポーツ娯楽、職場の事務所や店舗、工場など様々な建築があります。考えてみますと、一生の時間の、そのほとんどは建物の中で過ごしています。建築ほど日々の暮らし、社会と関わりの深いものはありません。その建築に携わる私たちは、地域の文化や風土を尊重し、安全で快適な空間を求める社会の期待に応えられるよう日々、研鑽しなければならぬと思います。

さて、今年は危険な猛暑日が秋になっても収まらず、気候変動の影響がますます顕著になってきました。各地で豪雨による浸水や土砂災害も多発しています。自然環境や生態系への負荷を減らし、より持続可能な社会の実現のため建築の力はますます重要になっています。

今年は阪神淡路大震災から 30 年になります。地震エネルギーは地下に蓄えられ、今年の元旦には能登半島地震が発生しました。そしてお盆には南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が初めて出されました。身近に迫る災害の何に備え、どう行動するか、我々建築士の社会的責任はますます増していると感じます。

加古川支部は支部設立当初から会員の親睦と地域交流を何より大切にしてきました。仕事も属性も様々な会員が集まり活動するには、お互いをよく知らなければ何も始まらないからです。その親睦や交流が新型コロナウイルスの 3 年間は満足にできませんでした。そのような中、感染予防を徹底して、小人数での見学会やリモート研修、2 級建築士製図試験講習会を行うことができました。困難な状況下、活動を続けていただいた会員の皆様には、心よりお礼申し上げます。

支部創立 60 周年を新たなスタートとし、次の 10 年、いやその先の未来に向かってより良い社会の礎となるため共に歩んでいきましょう。

これまで支部発展にご尽力、ご支援いただいた皆様に、改めて感謝申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

加古川支部創立 60 周年を祝して

公益社団法人 兵庫県建築士会
会 長 正 木 恵 子



加古川支部が創立 60 周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。1964 年 6 月の誕生以来、当代の小西支部長まで歴代支部長のもとで、連帯の礎を築き、地域社会への貢献を果たしてこられましたことに、深く敬意を表します。また平素より兵庫県建築士会へのご支援ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

加古川支部のホームページを拝見すると、社会貢献活動や建築士技術の研鑽事業の実施のほか、支部便りには皆様が楽しく建築士会活動に携わる様子が紹介されており、支部活動の素晴らしさを感じます。中でも、二級建築士製図試験対策講習会は、20 年に亘り、皆様が細やかな配慮をしつつ熱心に取り組まれてきたことを「集い」誌上で知り、その熱い思いと実行力に感銘を受けました。また、本会の地域貢献活動では、加古川支部会員を中核とするグループが継続して活躍されています。さらに、このたびの 60 周年記念講演会は、テーマを「SDGs がもたらす未来」とされ、最先端の技術について学び、建築士の社会的責務をあらためて自覚する大変意義深いものでした。「継続は力なり」と言われますが、こうした多様な活動の継続が新たな視座を生み、進化をもたらし、現在の多土済済で活力ある加古川支部へと繋がっているのでしょう。

さて、兵庫県建築士会は、令和 5 年度に兵庫県と建築物木材利用促進協定を締結し、行政との連携による建築物の脱炭素化への取り組みを進めています。また、災害対策委員会を新たに設置し、阪神・淡路大震災から 30 年となる今、あらためて災害への備え、発災時、復興の歩みのそれぞれのフェーズで、建築専門家団体として社会の期待に応えるべく積極的に取り組むことにしています。こうした喫緊の社会的課題に対して、建築士会ならではの多様性を活かした社会貢献を具現化するには、何よりもまず第一に、地域の建築とまち・文化・歴史を深く知る支部の力こそが必要です。これからも加古川支部の皆様の一層のお力添えをお願いいたします。結びに、加古川支部の益々のご発展と、まさに加古川の豊かな流れのように、建築士会という流域を沃野たらしめてくださることを祈念して、私のお祝いのことばとさせていただきます。

祝 辞

兵庫県 東播磨県民局
局長 野北 浩三



兵庫県建築士会加古川支部が設立 60 周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

貴支部の皆様方には、平素より東播磨地域の安全で快適なまちづくり、住まいづくりに重要な役割を果たしていただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。また、昭和 39 年の創立以来永きにわたり、建築の専門家集団として、建築士の育成をはじめ、建築文化・技術の広報活動や住宅相談などの社会貢献を重視した活動を行ってこられたことに、深く敬意を表します。

今年 1 月に発生した能登半島地震では、多くの建築物が倒壊し、建築物の耐震化の重要性が再認識されました。南海トラフ地震や内陸活断層地震の発生の切迫性が指摘されている中、県では、兵庫県耐震改修促進計画に基づき、住宅・建築物に対して、耐震診断や耐震改修への助成などにより、耐震化を進めています。また、近年特に課題とされている空き家対策としては、届出制度や規制の合理化を定めた空き家活用特区条例や活用のための助成制度など、空き家を活用したまちづくりに取り組んでいます。

来年は、阪神・淡路大震災から 30 年、そして大阪・関西万博の開幕と、兵庫にとって重要な節目を迎えます。また、建築関連としては、全ての新築住宅・建築物への省エネ基準適合義務化など、建築基準法及び建築物省エネ法の大きな制度改正があります。このような中、躍動する兵庫、そして躍動する東播磨を実現していくためには、建築士会の皆様のご理解、ご協力が欠かせません。今後とも皆様方におかれましては、住宅、建築物の耐震化や空き家活用など、安全で快適なまちづくり、住まいづくりにご尽力いただきますようお願い申し上げます。

次なる 10 年、20 年に向けて、兵庫県建築士会加古川支部のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

創立 60 周年を祝して

加古川市長 岡田 康裕



公益社団法人兵庫県建築士会加古川支部が、昭和 39 年 6 月 20 日に創立されてから 60 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴支部の皆様におかれましては、平素より加古川市政各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年は、少子高齢化や人口減少、コロナ禍や不安定な世界情勢など、激動する社会情勢の中、追い打ちをかけるように、令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震をはじめとして、地震、台風や豪雨等による激甚災害が頻発しております。また、南海トラフ地震は今後 30 年以内に発生する確率が 70%から 80%と推測されており、発生の切迫性が高まっております。

このような状況の中、加古川市においては、災害に強い都市基盤の整備について、地震をはじめとした災害発生時においても社会的なインフラを維持するとともに、事前防災や減災につながるような訓練や防災教育を実施する等「加古川市強靱化計画」に基づき、ハード・ソフト両面での取組を進めているところです。強靱化に向けた取組の実施主体は市だけでなく、国、兵庫県、事業者、市民等の多岐にわたることから、関係者相互における連携協力を一層強化して推進することにより、災害に強いまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

貴支部の皆様には、創立以来これまで会員相互の連携の下、技術の研鑽に努められ、建築分野の専門家として、長年培われた豊富な知識と技術をもって、東播磨地域 2 市 2 町のまちづくりの進展に多大な貢献をしてこられました。歴代支部長をはじめ、役員並びに会員の皆様方のご尽力に対し、あらためて敬意を表しますとともに、今後とも、加古川市の安全で安心なまちづくりに変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりましたが、貴支部の今後ますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝にてのご活躍を心からお祈り申しあげまして、お祝いのことばといたします。

祝 辞

高砂市長 都 倉 達 殊



公益社団法人兵庫県建築士会加古川支部が設立60周年を迎えられ、これまでの軌跡を綴る記念誌が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

貴支部の皆様におかれましては、平素より高砂市をはじめ東播地域に密着した建築の専門家として、地域社会の発展と豊かな住みよいまちづくりにご尽力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、南海トラフにおける大地震の発生が以前から懸念されており、令和6年当初には能登半島地震が発生するなど、ますます大規模災害への備えの重要性に注目が集まっています。国の地震に対する防災の基本方針を基に、地震・津波対策が様々な角度から進められている中、本市においても、命をどのように守るか、そのための情報をどのように入手するかをまとめた災害対応マニュアルとして、ハザードマップを作成し、随時更新をしています。

阪神・淡路大震災や東日本大震災のように、一度大地震が起きれば、その復旧と復興にかかる時間と費用は計り知れません。被害を抑えるためには、何よりもまず、建造物の安全性が求められます。特に、人々の生活基盤である家屋が倒壊すれば、命の危険はもちろん、心と生活の拠り所を失うことにもなります。安全な建造物の設計や施工監理などを担う建築士の皆様の役割は、ますます重要なものとなってきております。

また、各地で集中豪雨による被害も多発しており、自然災害に対する人々の防災意識は高まり続けています。皆様には、多岐にわたる専門分野での豊富な知識と技術でもって、私たちの暮らしを支える大黒柱として、なお一層ご活躍されますことをご期待申し上げます。

本市といたしましても、「笑顔あふれるまち高砂」を目指し、市民の皆様とともに、地域の暮らしを守る安全安心なまちの実現に向け、より一層邁進してまいります。

結びになりますが、設立60周年という節目の年を機に、貴支部のますますのご発展と、皆様方のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、お祝いのことばといたします。

創立 60 周年を祝して

稲美町長 中山 哲郎



公益社団法人兵庫県建築士会加古川支部創立 60 周年を心からお慶び申し上げます。

貴支部は昭和 39 年の創立以来、地域に根ざした事業活動を通じ、建築文化の進展と公共の福祉に貢献してこられました。その永年にわたるご功績は、歴代支部長様をはじめ、数多くの役員並びに会員の皆様が積極的な取組を続けてこられた賜と深く敬意を表します。

私たちを取り巻く社会は、成長社会から成熟社会へと変化し、建築物につきましても機能性・安全性が重視されるようになってまいりました。少子高齢化社会を迎えた今、高齢者や障がい者に配慮した環境づくりやバリアフリー化の推進、地震災害等に備えた耐震性の高い住宅や施設の建築の必要性が高まっており、また、近年ではゼロカーボン社会の実現に向け、持続可能性が高い住宅や施設にも注目が集まっており、こうした時、建築士の皆様の果たす役割は、ますます重要となってきております。

稲美町におきましては、「ともにつくる 未来へつなぐ 稲美町」を目指し、住民の皆様が安心して健やかに生活がおくれるよう、安全安心のまちづくりの推進に取り組んでおり、稲美町の豊かな自然と調和したこのまちを未来の世代に引き継いでまいりたいと考えております。

貴支部の皆様におかれましては、建築の専門家として地域に密着した活動を継続され、安全安心な住まいやまちづくりに大きく寄与してこられました。その活動に対し、あらためて敬意を表しますとともに、建築士会がもつ多様な人材を原動力とし、なお一層ご活躍されますことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、公益社団法人兵庫県建築士会加古川支部のますますのご発展と、会員の皆様のさらなるご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、お祝いのことばといたします。

設立 60 周年を祝して

播磨町長 佐伯 謙作



兵庫県建築士会加古川支部の設立 60 周年を心よりお祝い申し上げます。

貴支部は、昭和 39 年の設立以来、地域に根ざした建築活動を通じて、会員相互の親睦を図るとともに自己研鑽を積まれ、建築士の社会的地位向上と建築文化の発展並びに建築専門家としての社会貢献などに努められてこられました。建築業界はもとより東播磨地域のまちづくりに大きく貢献されてこられましたご活動に対し、心より敬意を表する次第でございます。

時代の変遷とともに、社会状況も刻々と変化し、建築業界におきましても、様々な課題を抱えておられることと推察いたします。そのような状況下にあっても、60 年という長きに亘り活発な事業展開をされてこられましたのは、歴代支部長様をはじめ会員の皆様方の並々ならぬ熱意と努力が活動の中で脈々と受け継がれ、顧客と地元を大切にされてこられたからだと思っております。今後もこの信念を大切にいただき、事業を継続されますことを心より願うものでございます。

播磨町といたしましても、第 5 次播磨町総合計画のキャッチフレーズ「いいとこいっぱい！ 笑顔いっぱい！ みんなでつくる ふるさと はりま」を実現するために、日々の安全安心な暮らしを守りながら、いざというときに支え合えるまちづくりを推進し、次世代に引き継いでまいりたいと思っております。

その中で、貴支部におかれましては、播磨町空き家等対策協議会に委員としてご参画いただき、空き家にかかる課題の解決に向けてご助言を賜っておりますとともに、地域の安全・安心な住環境の維持に向けた取り組みを共に進めていただいておりますことに、深く感謝いたします。

皆様方におかれましては、今後とも東播磨のまちづくりになお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この 60 周年を新たな契機とされ、兵庫県建築士会加古川支部のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝でのさらなるご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立60周年を祝して

一般社団法人 兵庫県建設業協会 加印支部
支部長 山本 貴弘



公益社団法人兵庫県建築士会加古川支部が創立60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴支部は、昭和39年に設立されて以来、60年の長きにわたり、地域における建築文化の向上と安全で快適な住みよいまちづくりにご尽力され、地域社会の発展に多大なる貢献をされてこられました。歴代支部長の皆様をはじめ、会員の皆様のご功勞に対し、深く敬意を表する次第であります。

兵庫県建設業協会加印支部も、東播磨地域の発展のため、会員が一致協力し、常に技術の研鑽に努め、良質な社会資本の整備や社会貢献活動を通じて、地域の活性化や災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

建設業は、我が国の重要な基幹産業であり、地域建設業は人々の安全で安心な暮らしを支える「地域の守り手」であるとともに、豊かで持続可能な生活を営むための社会基盤づくりを担ってきました。

今我が国は、少子高齢化や人口減少社会の到来など社会構造の転換期を迎えています。建設業にとっても、働き方改革と処遇の改善、担い手確保など克服すべき課題が山積しており、これらの解決に向けて積極的な取り組みが求められています。

地域建設業が一致団結し「地域の守り手」としての社会的使命を果たすとともに、建設業に携わる人たちや建設業を目指す若者が、夢と誇りを持って活躍できる、希望に満ちた憧れの産業となるよう努力してまいります。

今後とも、安全で快適な住環境づくりに大きな役割を果たされる貴支部と、更なる連携、協調を深めながら、地域住民に信頼され、地域社会の発展に貢献できるよう活動してまいりますので、引き続きご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、公益社団法人兵庫県建築士会加古川支部のますますのご発展と、会員の皆様の御健勝とご活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

設立60周年を祝して

一般社団法人 兵庫県建築士事務所協会 加古川支部
支部長 山本 和久



公益社団法人 兵庫県建築士会 加古川支部が昭和39年の創立から 60周年を迎えられ 心よりお祝い申し上げます。 又、記念事業の一環として記念誌が発行されますことを、心よりお祝い申し上げます。

貴支部が創立以来60年の長きにわたり、地域社会に密着した活動を続けてこられ建築士として社会貢献されてこられた事 心より深く敬意を表します。

近年、思いもよらない感染症が蔓延したり、集中豪雨や地震が頻発して、災害や環境を考慮した建築がますます重要になってまいりました。

私共、兵庫県建築士事務所協会 加古川支部も同じ建築の専門家として 安心安全な住まいや街づくりに貢献できるように お互い『協力』『連携』『協働』出来ればと思っております。

最後になりましたが、兵庫県建築士会 加古川支部がこの先ますます飛躍されますよう心よりご祈念申し上げると共に、会員の皆様のご発展とご健勝をお祈り申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

創立 60 周年記念式典 式次第

◆ 2024 年（令和 6 年）4 月 27 日 14:00～18:30 加古川商工会議所 4 階大会議室

第 1 部 記念式典

14:00～14:45

1. 物故会員黙とう
2. 開会
3. 支部長あいさつ
4. 来賓あいさつ

支部長 小西 敏文

加古川市長 岡田 康裕 様
高砂市長 都倉 達殊 様
稲美町長 中山 哲郎 様
(公社) 兵庫県建築士会 会長 正木 恵子 様

5. 来賓紹介
6. 会員表彰 (永年会員表彰・功労者表彰)
7. 閉会のことば
8. 記念写真

副支部長 吉備 考司

第 2 部 特別講演会

15:00～16:00

- ・ 演題
- ・ 講師

「SDGs がもたらす未来」

福田 竜司 氏 株式会社カネカ

Global Open Innovation 企画部

第 3 部 記念懇親会

16:30～18:30

◆ 会場 加古川プラザホテル 2 階鹿児の間

1. 支部長あいさつ
2. 来賓あいさつ
3. 乾杯
4. ご歓談
5. 記念写真
6. 閉会のことば

支部長 小西 敏文

(公社) 兵庫県建築士会 副会長 田村 嘉朗 様

(公社) 兵庫県建築士会 前会長 宮宅 勇二 様

副支部長 長尾 淳一



◆ ご来賓

加古川市
高砂市
稲美町

(一社) 兵庫県建設業協会 加印支部
 (一社) 兵庫県建築士事務所協会 加古川支部
 (公社) 兵庫県建築士会
 (公社) 兵庫県建築士会
 (公社) 兵庫県建築士会
 (公社) 兵庫県建築士会
 (公社) 兵庫県建築士会 青年委員会
 (公社) 兵庫県建築士会 淡路支部
 (公社) 兵庫県建築士会 北播磨支部
 (公社) 兵庫県建築士会 神戸支部
 (公社) 兵庫県建築士会 三田支部
 (公社) 兵庫県建築士会 阪神支部
 (公社) 兵庫県建築士会 姫路支部
 (公社) 兵庫県建築士会 明石支部
 株式会社 カネカ 高砂工業所

市長 岡田 康裕 様
 市長 都倉 達殊 様
 町長 中山 哲郎 様
 支部長 三宅 伸介 様
 支部長 玉岡 安裕 様
 会長 正木 恵子 様
 副会長 田村 嘉朗 様
 副会長 岡崎 雅彦 様
 副会長 橋本 育子 様
 副会長 西嶋 宣久 様
 委員長代理 阪本 剛史 様
 支部長 榮 宏之 様
 支部長 金田 成寿 様
 支部長代理 久宝 弘幸 様
 支部長 野上 伸二 様
 支部長 廣瀬 克也 様
 支部長 石原 弘一 様
 支部長 嶋本 浩史 様
 鷹尾 治久 様



加古川市長 岡田 康裕 様



高砂市長 都倉 達殊 様



稲美町長 中山 哲郎 様



(公社)兵庫県建築士会
会長 正木 恵子 様



(一社)兵庫県建設業協会
加印支部長 三宅 伸介 様



(一社)兵庫県建築士事務所協会
加古川支部長 玉岡 安裕 様

◆ 会員表彰

◎ 永年会員表彰

五十嵐 裕 治
 古田 充
 鬼一 恭 士
 赤尾 資 司
 井澤 康 晴
 矢幡 稔
 上野 孝 雄
 豊田 眞 司
 竹田 淳 一
 船橋 佳 照
 小西 敏 文
 橋本 敏 文
 厚海 博 志
 高橋 功
 高橋 賢 吉
 柏木 一 良
 福田 栄 一



◎ 功勞者表彰

増田 正 幸
 阪口 晴 彦
 高橋 賢 吉
 高橋 功
 杉山 和 馬
 金尾 祥 吾
 東田 洋 一
 森川 弘 樹



式典を終えて思うこと 『お気に入りの法典』

副支部長 吉 備 考 司



創立 60 周年記念式典は厳かな雰囲気になり、賑やかな記念撮影によって終了いたしました。各関係首長よりお祝いや励ましの言葉を頂きました。いくつかのお褒めの言葉もあり、今後も良き活動が続くように期待されていると感じました。この 10 年間の活動を振り返り、永年会員並びに功労者への表彰も執り行われました。

今は亡き先輩方の雰囲気を思い起こして感じた事ですが、我が建築士会員は発足以来、一貫して社会貢献について思慮を巡らせてきたと思います。昭和 25 年に施行された現行の建築関係法について真摯に受け止め扱ってきたと思います。建築基準法の冒頭の言葉“最低の基準を定めて・・・公共の福祉云々・・・”がことある毎に語られ、それ故に取られる行動かと思えます。そして建築士法の中に“建築士による組織を持つことができる”とあり、それが自発的な使命感を生むに至っていると感じます。ご存じの通り、各建築士会員は建築設計業のみならず、行政、工事業等さまざまな業種に携わる方々が、立場を超え、個人的な意志で集まっています。ある意味、相反する利権について知ることができるので、意見を出し合えば合理的でバランスのとれた法律が生まれるように思います。とはいえ個人的な気持ちとしては、現実との乖離を疑うこともあります。

何はともあれ、人々を幸せにしたい気持ちは法律とは別のところで発動していると思います。つまり、真に人々に寄与する法改正が無きままにあっても、しかし『ルールに則って、やりたいことはやります』これが我が建築士会を 60 年と押し進めてきた信条なのではないかと思います。

私のお気に入りの法文は、単純で明快な“家がつぶれたら○刑だあ〜”です。ハムラビ法典に使われていた文脈のもじりですが、『漫画ガキデカ』世代の私には愉快であり、また潔いとも思います。いずれにしても、私には複雑奇々怪々の法律、そちらはどなたかにお任せしたいと思います。記念式典を終えてほっとした今は、愉快で真面目な先輩方に続き、建築士会の一員として前向きな活動を目指したいと思っています。そして、我々の住む東播磨、この兵庫にはいつも希望が湧き上がるように願います。



創立 60 周年記念 特別講演会 「SDGs がもたらす未来」

企画担当 有田 和人



4月27日、加古川商工会議所において、「加古川支部創立60周年記念式典」が開催され、特別講演会として株式会社カネカの福田竜二様に「SDGs がもたらす未来」という演題でご講演を頂きました。

私たち建築に携わる者にとっては、避けることの出来ないゴミの問題。いわゆる産業廃棄物。その問題にも結びつく「生分解性バイオポリマー」の開発にまつわるお話ということで、多くの方が興味を持って聴かれたように思います。生分解性とは、微生物の働きで最終的にはCO₂と水になって自然界へと循環していく性質のことです。海水や土壌中で分解されるプラスチックの概要と、資源循環型社会構築に向けての取り組みなど、中身の濃いお話に自らの仕事を重ね合わせ、様々なことを学ぶ機会となりました。

日常においてプラスチックはありとあらゆるところに用いられていますが、それを意識して生活することはほぼありません。初めて数値で知りましたが、世界で4億t/年のプラスチックのゴミが出ており、これから数十年の間に2倍、3倍と膨れ上がると予想されているそうです。1950年以降に世界で生産され、生分解されずにゴミとして蓄積された量は、このままですと2050年には海の魚の総重量を超えるらしく、あまりのリアルに驚愕したのは、私だけではなかったと思います。魚よりもゴミの方が多いい海なんて、考えるだけでも気が滅入ります。

周年事業という大きなイベントにおける特別講演ということで、様々な観点から様々な検討をしましたが、最終的に地元拠点を持つ企業に依頼し、ご快諾頂けたことは非常に良かったのではないかと思います。地元も見つめ世界も見つめ、加古川支部ならではの組織でありたいと願います。



講師 福田 竜司 氏





SDG s 講演会を終えて

副支部長 坂上 浩司



株式会社 カネカ Global Open Innovation(GOI)企画部の福田 竜司氏を講師にお招きし、特別講演会「SDG s がもたらす未来」を開催しました。

株式会社 カネカは「R2B」オンリーワン、グローバルナンバーワンの優れた素材の創出を目指し、国内外の大学・公的研究機関等との連携によるOIを推進しています。

主な拠点は、

- カネカ太陽電池研究室：ベルギー ルーベンにて世界最高変換効率の太陽電池研究。
- カネカUSイノベーションセンター：アメリカ合衆国 カリフォルニアにて健康・情報通信・M&Aを含む研究・新規事業開発の推進。

他に、ルーバン・カトリック大学にてバイオ医薬品のCDMO事業を強化・拡大に向け、ウイルス感染症向けワクチンやバイオ医薬品の普及を目指しています。

上記でご紹介の通り世界的な環境問題の解決に取り組む一連の流れが、私達にも関連して参ります。世界の近代化建築では新たな建設を目指し、古い物を解体・撤去し素晴らしい建設物が誕生して来ましたが、地球規模から考えれば、古いものを伝統文化とし、保存・修復しながら生活をして来ましたが、人類による近代化都市構想に向け、森林伐採・乱獲等によりおだやかな自然環境体が荒廃し、人口集中・ビル群の拡大・温暖化による異常気象・年間の一定季節の破壊、生物・植物の環境限界による問題範囲の拡大等、悲しいですが、良い話は聞こえて来ません。

そして世界の至る処で紛争が拡大しておりますが、我々が地球にやさしい、環境改善を目指し砂漠等に植林を行いビル群に緑化を施し、何十年、何百年先の地球のグローバル健全化を目指し取組む手段は山積しております。人それぞれ、桜梅桃李の考えで我々に出来る手を打って参りましょう。

この度の講演でも地表から海洋汚染がマイクロプラスチックとなり、食物連鎖で我々の体内への影響が危ぶまれております。建築士である我々の住環境をアドバイスする立場から、広く皆様への呼びかけを拡大して参りたいものです。

我が子・孫そして人類の生命体が安心して生活の出来る社会を目指す事が急務です。宇宙船地球号が幾多のイデオロギー等でも脅かされぬ環境を目指して建築士会の活動を充実して参りましょう。

2025 大阪万博のテーマは「いのち」です。メインシンボルのリングが輪となり場内が木の香りに包まれ屋根に上がれば海風を全身に感じられる。我々の関心事であるパビリオンでは、資材を再利用して持続可能を表現するものがあります。イギリス館はロンドンと東京の五輪で使用した材料を、オーストラリア館も他のイベントで使った材料を再利用。北欧の5か国が共同で出展する北欧館は再生可能な材料で建てられる環境に配慮した建物です。

パビリオンと共に重要な役割を果たすのがイベントです。食や健康、生物多様性といった八つのテーマがあり、「地球規模の課題解決に向けた対話と交流」との目的で会場スタッフ「EXPO サービスクルー」の募集も枠が即時埋まったほど、若者を中心に機運は着実に高まりつつあります。今後海外の方も含め、全ての来場者にとって魅力ある万博を目指しており、「人間中心の生命観から脱却し、生命圏全体を視野に収めた新たな生命観を人類全体で共有する場」と題しています。

『昭和期に活躍した洋画家・児島善三郎のアトリエ跡地には今、彼の孫が営む画廊があります。敷地内には立派な松が立ち、氏は当初、松を眺めつつ、執筆に励んだという。氏が逝いて20年がたち、井上家に松を譲った。児島画伯の傑作に「春遠からじ」がある。画伯は作品の解題に記した。

「希望を持つことだ！やがては春も廻り来る」と。翌年には躍動感に満ち溢れた代表作「アルプスへの道」を完成させた。松の緑は「常盤色」「千歳緑」とも表現される。“共に時を経ても変わらない色”を意味する。』

一瞬の出会い・縁を大切に永遠に不変で持続可能な建築士会を目指して参ります。

この度の講演でお世話になりました、各種機関の皆様、ご来賓の皆様、役員の皆様、ご講演頂きました講師・チームの皆様には改めて感謝申し上げます、今回の講演の機会を再スタートとし、皆様のご健勝と当会の益々の発展に向けご協力をお願い申し上げます。



加古川支部創立 60 周年、想う事

兵庫県建築士会 前会長

宮宅 勇二



思えば、私は 20 周年記念事業の時から加古川支部でお世話になっていました。その頃は私から見れば長老、と言われるような猛者、と言ってもいいような方が何人もおられた、という記憶があります。

この頃（昭和 59 年頃）は高度経済成長期の後半のあたりだったのですが、まだまだ新築の建物を造る意欲がみなぎっている、という中で記念行事も華やかに進んでゆきました。会員数は 204 名でした。

次に 30 周年。正にあの阪神淡路大震災があった時です。日本経済も下りかけていた頃での大災害でした。応急危険度判定の為に日曜日ごとに神戸に行った記憶がよみがえります。

私は青年部長を任せられ、30 周年記念事業の一環として少年少女絵画展を松風ギャラリーで開催したことが思い出されます。会員数は 182 名でした。

そして 40 周年。日本経済は正に停滞中でした。新築の件数は徐々に減り、改修工事の割合が大きくなりかけたのもこの頃からではなかったでしょうか。この 40 周年は加古川支部長として参画しましたが、会員の皆様を牽引できたかどうかはわかりません。が、多くの人の力で 40 周年を終える事ができました。会員数は 165 名でした。

続いて 10 年前の 50 周年。慢性的なデフレの中で人口減少も声高に言われるようになってきました。会員数の減少に歯止めがかからず、士会運営もきびしい時代を迎えました。その中での創意工夫の一環か、記念誌も以前と比べて簡素化されました。会員数は 125 名でした。

そして 60 周年。我が加古川支部は、現在は青年部が支部全体を引っ張ってくれています。いい事です。どんな時代になろうとも、人間生活の基本である建築業は消える事はありません。

今後共建築士会員は仲よく、向上心を持って未来に向かってもらいたいですね。

加古川支部 60 周年記念式典 ・ 記念懇親会を終えて

副支部長 長尾 淳一



兵庫県建築士会加古川支部の 60 周年記念式典が 2024 年 4 月 27 日に開催されました。

第 3 部 記念懇親会では竹下厚生委員長の司会の下で、記念すべく 60 周年の懇親会が始まりました。小西支部長に挨拶を頂き、兵庫県建築士会 副会長 田村様に来賓の挨拶を頂きました。あいさつの言葉の中に「加古川は昔から元気にいろいろな事業を行い、今もこのように継続的に活動されている」とお褒めの言葉を頂きました。乾杯の御発声は宮宅前会長に取り仕切っていただき、歓談に入っていました。

40 周年・50 周年と経験させていただきましたが色々な諸事情で昔と違った形の懇親会となりましたが、ご臨席頂いた方たちは和気あいあいと歓談されているのを見て大変良かったと思いました。最近では、これは危ないからやってはダメ、これもダメと色々と規制や新ルールが邪魔をして伸び伸びと活動しにくくなったように思います。このような世知辛い環境になってきていますが、加古川は今まで通り元気を出して地域貢献を行ってほしいと思います。

最後になりましたが、加古川支部 60 周年記念式典に御臨席くださいました方々、まことにありがとうございました。加古川支部は元気をモットーとして、次の 70 周年に向かっていきます。







支部活動 10年の歩み (2015・2016)

◎ 2015年 (H27年) 度

- ・第52回支部通常総会 (23名)
- ・東播ブロック事業 (明石大橋) (10名)
- ・京都見学研修会 (18名)
- ・ガラス研修会 (17名)
- ・2級製図講習会 (7名)
- ・納涼懇親会 (21名)
- ・ボウリング (13名) 新年会 (21名)



第52回支部通常総会

青年部会

- ・加古川楽市 (延23名)
- ・若い夢フェスティバル木工教室 (7名)
- ・研修旅行 (奈良東大寺他) (21名)
- ・忘年会 (10名)



加古川楽市



東播ブロック事業

2015年役員

支部長	矢幡 稔			
副支部長	秋田 克司	小西 敏文	吉備 考司	
会計	増田 正幸			
理事	高橋 賢吉	坂上 浩司	有田 和人	
	長尾 淳一	松本 有司	島崎 淳二	
	西本 和樹	鶴鷹 聖二	竹下 孝行	
	阪口 晴彦	上野 孝雄	尾瀬 耕司	
	鬼一 恭士	城戸 史郎	金澤 純一	
	永井 英三	橋本 敏文	藤本 桂三	
	古田 充	宮宅 勇二	増田 正幸	
監事	成田 幸男	五十嵐 裕治		
青年部会長	島崎 淳二			



京都見学研修会(京都国立博物館)

国内10大ニュース

- ・北陸新幹線開業(東京-金沢間2時間28分)
- ・日経平均株価15年ぶりに2万円台を回復
- ・「大阪都構想」が住民投票で否決
- ・選挙権年齢引き下げ、「18歳以上」に
- ・安保関連法成立 集団的自衛権が行使可に
- ・税と社会保障マイナンバー制度がスタート
- ・国産初の小型ジェット機「MRJ」が初飛行
- ・新国立競技場、隈研吾氏デザインで建設へ
- ・郵政3社が東証1部に株式を新規上場
- ・お笑い芸人又吉直樹の「火花」が芥川賞に
- 【番外】ラグビー日本代表W杯で南アフリカに歴史的勝利



研修旅行(奈良東大寺他)

◎ 2016年（H28年）度

- ・第53回支部通常総会（23名）
- ・中、西播磨見学研修会（14名）
- ・防災研修会（15名）
- ・2級製図講習会（8名）
- ・納涼懇親会（17名）
- ・新年会（23名）

青年部会

- ・加古川楽市（延26名）
- ・若い夢フェスティバル木工教室（15名）
- ・研修旅行（大分、愛媛）（5名）
- ・浜の宮中学木工教室（7名）
- ・新入会員歓迎懇親会（7名）
- ・忘年会（12名）

2016年役員

支部長	矢幡 稔			
副支部長	秋田 克司	小西 敏文	吉備 考司	
会計	増田 正幸			
理事	高橋 賢吉	坂上 浩司	有田 和人	
	長尾 淳一	松本 有司	島崎 淳二	
	西本 和樹	鶴鷹 聖二	竹下 孝行	
	阪口 晴彦	上野 孝雄	尾瀬 耕司	
	鬼一 恭土	金澤 純一	永井 英三	
	橋本 敏文	藤本 桂三	古田 充	
	宮宅 勇二	増田 正幸		
監事	成田 幸男	五十嵐 裕治		
青年部会長	島崎 淳二			

国内10大ニュース

- ・日本銀行が日本初「マイナス金利」を導入
- ・鴻海精密工業がシャープを買収、傘下に
- ・北海道新幹線開業（東京-新函館北斗間）
- ・熊本地震(M7.3)発生 全半壊36,532戸
- ・G7サミットが伊勢志摩で開催される
- ・スマホゲーム「ポケモンGO」が大ブーム
- ・小池百合子氏が初の女性都知事に
- ・新たな国民の祝日「山の日」が制定される
- ・天皇陛下が生前退位の意向を表明
- ・アイドルグループ「SMAP」が解散発表
- 【番外】アメリカ大統領選でドナルド・トランプ氏当選



中、西播磨見学研修会
(神崎小学校・幼稚園)



加古川楽市



若い夢フェスティバル木工教室



研修旅行（大分、愛媛）

支部活動 10 年の歩み (2017・2018)

◎ 2017 年 (H29 年) 度

- ・第 54 回支部通常総会 (23 名)
- ・広島見学会 (16 名)
- ・バリアフリー研修会 (17 名)
- ・2 級製図講習会 (7 名)
- ・納涼懇親会 (20 名)
- ・ボウリング (13 名) 新年会 (20 名)

青年部会

- ・加古川楽市 (延 39 名)
- ・若い夢フェスティバル木工体験 (12 名)
- ・子供チャレンジ教室 (尾上公主催) 応援実施 (児童 35 名) (延 15 名)
- ・研修旅行 (大阪街並み: 10 名)
- ・忘年会 (16 名)
- ・青年部決起大会 (11 名)



総会 懇親会



2 級製図講習会



納涼懇親会

2017 年役員

支部長	矢幡 稔		
副支部長	秋田 克司	小西 敏文	吉備 考司
会計	増田 正幸		
理事	高橋 賢吉	坂上 浩司	有田 和人
	長尾 淳一	松本 有司	竹下 孝行
	東田 洋一	金尾 祥吾	八朔 一真
	阪口 晴彦	宮宅 勇二	永井 英三
	古田 充	島崎 淳二	吉田 文男
	尾瀬 くみ	高橋 功	尾瀬 耕司
	鬼一 恭士	藤本 桂三	増田 正幸
監事	窪田 満義、五十嵐 裕治		
青年部会長	竹下 孝行		



楽市活動ブース近くで女子高生が出店する「いっちゃんのプリン」について、日本テレビ 朝の情報番組「スッキリ」の取材に答える 2 人

国内 10 大ニュース

- ・14 才藤井聡太四段 29 連勝 歴代単独 1 位
- ・九州北部豪雨災害 2 日間で 500mm 超え
- ・東京都議選で都民ファーストの会が圧勝
- ・皇室典範改正で天皇の生前退位が可能に
- ・長時間労働を是正する 働き方改革が進展
- ・長崎「軍艦島」がユネスコ世界遺産に登録
- ・加計学園・森友学園の疑惑が政治問題に
- ・衆院選で自民が大勝 自公で 3 分の 2 確保
- ・19 年ぶりに稀勢の里が日本出身横綱に昇進
- ・男子 100m 桐生祥秀 (22) 9 秒 98 を記録



【番外】上野動物園でジャイアントパンダ「シャンシャン」が誕生

広島見学会

◎ 2018年（H30年）度

- ・第55回支部通常総会（24名）
- ・篠山見学会（14名）
- ・2級製図講習会（5名）
- ・納涼懇親会（21名）
- ・ボウリング（14名）新年会（20名）

青年部会

- ・加古川楽市（延37名）
- ・若い夢フェスティバル木工体験（12名）
- ・子供チャレンジ教室（尾上公主催）を応援実施（児童57名）（延16名）
- ・忘年会（14名）



第55回支部通常総会

2018年役員

支部長	矢幡 稔			
副支部長	秋田 克司	小西 敏文	吉備 考司	
会計	有田 和人			
理事	増田 正幸	高橋 賢吉	坂上 浩司	
	長尾 淳一	松本 有司	竹下 孝行	
	東田 洋一	金尾 祥吾	八朔 一真	
	阪口 晴彦	宮宅 勇二	永井 英三	
	古田 充	島崎 淳二	吉田 文男	
	尾瀬 くみ	高橋 功	尾瀬 耕司	
	鬼一 恭士	藤本 桂三	有田 和人	
監事	窪田 満義、五十嵐 裕治			
青年部会長	竹下 孝行			



加古川楽市

国内10大ニュース

- ・北海道胆振東部で震度7、道内全域で停電
- ・西日本豪雨広島 岡山 愛媛で死者220人超
- ・台風21号関西を直撃、関空が冠水し孤立
- ・大阪北部で震度6弱 死者・負傷者が多数
- ・日産自動車のカルロス・ゴーン会長逮捕
- ・ノーベル生理学・医学賞に本庶佑氏
- ・大谷翔平がメジャーリーグで新人王受賞
- ・LGBTに対する社会的理解が進展
- ・電力自由化で再生可能エネルギーが注目
- ・大坂なおみがテニス全米オープン優勝
- 【番外】平昌冬季五輪で、日本選手がメダルを多数獲得。フィギュア・羽生結弦は連覇



篠山見学会（篠山城大書院）

建築士会加古川支部 60周年によせて

第20代 青年部会長
島崎 淳二



加古川支部創立60周年、おめでとうございます。

振り返ってみますと50周年では青年部会長として記念事業を実施しておりました。その後次の人に引き継ぐはずだったのですが2015年、2016年は部会長のなり手がおらず、2013年、2014年に引き続き、私が務めることになりました。この年は、地域貢献活動では「温故知新で住環境改善プロジェクト」と題して、竹ぼうきやよしずづくりの企画をしておりました。それまでしていた藁の家づくりは一大プロジェクトですが、よしずづくりはだれでも参加でき、気軽に開催できるので、よい企画だったなあとも今でも思います。(自画自賛ですね…スイマセン)

私も今は青年部を卒業し、親会の会計を務めておりますが、今の青年部の人たちの活動で、とても嬉しいことがありました。

私の声掛けで始まった「加古川河口の葦を使って茅葺のあずまやをつくろう」というプロジェクトが私が青年部の頃ありました。

あれから15年程経ち、そのあずまやの茅葺も傷みが出てきておりました。何とかしないといけないうち、板金の屋根にでも葺き替えるかと、長尾副支部長に相談しますと「もう一度、茅で葺き替えよう、青年部に中心になってもらって前回やったメンバーも協力してやったらいい」と、めちゃくちゃ前向きな助言を下さいました。

助言を背に勇気を振り絞って青年部の皆さんに相談しますと「やります！」と賛同いただき、現在、中心になって取り組んでくれております。

「なんか、つながっていったる…(涙)」

自分の始めた事業が…ということではなく、地域のためという思いが、若い後輩たちへ伝わり、また次の後輩にその思いと行動を伝えていけるチームとして、在り続けていっていることに喜びを感じております。



竹ぼうきづくり



よしずづくり



ご挨拶

第21代 青年部会長
竹下 孝行



兵庫県建築士会加古川支部創立 60 周年を迎え、心からお喜び申し上げます。
この記念すべき年を加古川支部の一員として迎えることが出来大変嬉しく思います。
私は、2017 年、2018 年度の青年部、部会長を努めさせて頂きました。

私が青年部会長を仰せつかった頃は、今まで頼りにしてきた先輩方が、次々に年齢制限により親会にあがり青年部の新規入会者は中々集まらず不安を覚えた記憶があります。そんな中、青年部の年齢制限を上げる為、理事会で協議をし総会で認められ年齢制限を上げて頂き無事、事なき得ました。

その後は、青年部のメンバー・オブザーバーの先輩方のご協力のおかげで、楽市・若い夢フェスティバル・軽トラ市などで地域貢献及び広報活動が出来たと思います。

次の 10 年も青年部一同力を合わせ地域貢献出来る建築士として強い団結力を持ち合わせる加古川支部青年部として頑張りたいと願います。



加古川楽市



子供チャレンジ教室



若い夢フェス 木工体験



軽トラ市場



支部活動 10 年の歩み (2019・2020)

◎ 2019 年 (R 元年) 度

- ・第 56 回支部通常総会 (22 名)
- ・斑鳩寺庫裏保存修理見学会 (13 名)
- ・ぎふ見学会 (13 名)
- ・2 級製図講習会 (3 名)
- ・総会懇親会 (23 名)
- ・納涼懇親会 (21 名)
- ・ボウリング(12 名) 新年会(22 名)



モザイクタイルミュージアム



青年部会

- ・加古川楽市 (延 37 名)
- ・若い夢フェスティバル木工体験 (14 名)
- ・子供チャレンジ教室を加印木材組合と
 応援実施 (児童 65 名) (計 12 名)
- ・研修旅行 (山陰地方: 9 名)
- ・忘年会 (15 名)
- ・職業講演会 (東播工高: 3 名)
- ・ファミリーツアー (ボウリング: 7 名)



ぎふメディアコスモス



総会懇親会

2019 年役員

支部長	小西 敏文		
副支部長	秋田 克司	吉備 考司	坂上 浩司
会計	有田 和人		
理事	増田 正幸	高橋 賢吉	長尾 淳一
	林 友宏	松本 有司	石野 秀昭
	阪口 晴彦	金尾 祥吾	八朔 一真
	杉山 和馬	東田 洋一	竹下 孝行
	島崎 淳二	宮宅 勇二	永井 英三
	古田 充	矢幡 稔	吉田 文男
	尾瀬 くみ	高橋 功	尾瀬 耕司
	鬼一 恭士	藤本 桂三	有田 和人

監 事 窪田 満義 五十嵐 裕治

青年部会長 阪口 晴彦



若い夢フェス 木工体験



研修旅行 (山陰地方)

国内 10 大ニュース

- ・天皇陛下が即位。「令和」に改元
- ・ラグビーW杯日本大会開幕、日本 8 強
- ・京都アニメーション放火事件、36 人死亡
- ・消費税率 10% スタート
- ・台風 19 号東日本で大雨被害、死者相次ぐ
- ・はやぶさ 2 小惑星からサンプル採取成功
- ・ノーベル化学賞に吉野彰氏
- ・世界遺産に登録の沖縄・首里城が焼失
- ・ゴルフ・渋野日向子が全英女子優勝
- ・新国立競技場が完成

【番外】車いすテニスの国枝慎吾、全豪オープンで優勝



ファミリーツアー (ボウリング)

◎ 2020年(R2年)度

- ・第57回支部通常総会（書面議決方式）
（表決者72名）
- ・南宗寺門徒会館・納骨堂見学会（16名）
- ・神戸東灘見学会（14名）
- ・2級製図講習会（3名）
- ・懇親交流事業は、コロナ感染予防のため
すべて自粛

青年部会

- ・コロナ感染予防のため、事業をすべて自粛



第57回支部
通常総会
（書面議決）

表決者72名

（表決葉書）

2020年役員

支部長	小西 敏文			
副支部長	秋田 克司	吉備 考司	坂上 浩司	
会計	有田 和人			
理事	増田 正幸	高橋 賢吉	長尾 淳一	
	林 友宏	松本 有司	石野 秀昭	
	阪口 晴彦	金尾 祥吾	八朔 一真	
	杉山 和馬	東田 洋一	竹下 孝行	
	島崎 淳二	宮宅 勇二	永井 英三	
	古田 充	矢幡 稔	吉田 文男	
	尾瀬 くみ	高橋 功	尾瀬 耕司	
	鬼一 恭士	藤本 桂三	有田 和人	
監事	窪田 満義	五十嵐 裕治		
青年部会長	阪口 晴彦			



神戸東灘見学会(香雪美術館)



神戸東灘見学会(御影公会堂)

国内10大ニュース

- ・新型コロナウイルス感染拡大緊急事態宣言
- ・東京五輪・パラリンピック 1年延期
- ・安倍首相が辞任表明、菅新内閣発足
- ・日本各地でPCR検査体制が強化される
- ・新型コロナ感染で志村けんさんら死去
- ・感染拡大防止の為全国の小中高に休校要請
- ・全国で卒業式、入学式が中止又は縮小に
- ・感染拡大の影響で甲子園春夏の大会中止
- ・藤井聡太七段 最年少で二冠達成
- ・オンライン授業の普及、教育現場に変化が
- 【番外】アニメ「鬼滅の刃」が歴代興行収入
を更新し、日本国内で社会現象に

2級製図講習会



支部活動 10 年の歩み (2021・2022)

◎ 2021 年 (R3 年) 度

- ・第 58 回支部通常総会 (書面議決方式)
(表決者 59 名)
- ・リモート併用省エネ講習会 2 回 (延 15 名)
内リモート講習受講 (延 4 名)
- ・岡山犬島見学会 (17 名)
- ・2 級製図講習会 (6 名)
- ・懇親交流事業は、コロナ感染予防のため
すべて自粛

青年部会

- ・加古川楽市 (延 27 名)
- コロナ感染予防のため、他の事業は自粛

2021 年役員

支部長	小西 敏文		
副支部長	吉備 考司	坂上 浩司	長尾 淳一
会計	有田 和人		
理事	高橋 賢吉	増田 正幸	竹下 孝行
	島崎 淳二	石野 秀昭	林 友宏
	松本 有司	杉山 和馬	金尾 祥吾
	東田 洋一	高橋 章二	阪口 晴彦
	宮宅 勇二	永井 英三	矢幡 稔
	吉田 文男	尾瀬 くみ	高橋 功
	尾瀬 耕司	永田 康貴	有田 和人
監事	窪田 満義 古田 充		
青年部会長	杉山 和馬		

国内 10 大ニュース

- ・新型コロナウイルスのワクチン接種開始
- ・春夏甲子園、2 年ぶり開催
- ・秋篠宮家長女・眞子様と小室圭さんが結婚
- ・福島第一「処理水」の海洋放出決定
- ・静岡県熱海市で大規模な土石流災害発生
- ・2020 年東京五輪・パラリンピック開催
- ・藤井聡太が竜王戦勝利史上最年少四冠達成
- ・第 100 代首相に岸田文雄氏が就任
- ・気候変動の研究で真鍋淑郎氏にノーベル賞
- ・新変異株「オミクロン株」、世界で感染拡大
- 【番外】日本の総人口が初めて減少に転じ、少子高齢化が進行する社会問題が浮き彫りに



理事会開催状況



岡山犬島見学会(犬島精錬所美術館)



2 級製図講習会



加古川楽市

◎ 2022 年 (R4 年) 度

- ・第 59 回支部通常総会 (書面議決方式)
(表決者 55 名)
- ・旧加古川図書館見学会を建築学会近畿支部、
ヘリテージはりまと共催で実施 (30 名)
- ・2 級製図講習会事業が本部 70 周年記念
特別表彰を受ける (松本有司)
- ・大阪見学会 (12 名)
- ・2 級製図講習会 (7 名)
- ・納涼懇親会 (17 名)
- ・ボウリング (15 名)・新年会 (22 名)

青年部会

- ・加古川楽市 (延 20 名)
- ・ファミリーツアー大蔵海岸 (延 15 名)
- ・懇親会 (8 名)
- ・忘年会 (10 名)

2022 年役員

- 支部長 小西 敏文
 副支部長 吉備 考司 坂上 浩司 長尾 淳一
 会 計 島崎 淳二
 理 事 高橋 賢吉 増田 正幸 竹下 孝行
 有田 和人 石野 秀昭 林 友宏
 松本 有司 杉山 和馬 金尾 祥吾
 東田 洋一 高橋 章二 阪口 晴彦
 宮宅 勇二 永井 英三 矢幡 稔
 吉田 文男 尾瀬 くみ 高橋 功
 尾瀬 耕司 永田 康貴 島崎 淳二
 監 事 古田 充 上野 孝雄
 青年部会長 杉山 和馬

国内 10 大ニュース

- ・演説中の安倍晋三元首相が銃撃され死亡
- ・知床観光船沈没事故
- ・大谷翔平、ルース以来 2 桁勝利 2 桁本塁打
- ・32 年ぶり円安、1 ドル=150 円突破
- ・日本で海洋プラスチック問題が注目される
- ・新型コロナ感染者、1 日当り 10 万人超え
- ・改正民法施行、成人年齢 18 歳に引下げ
- ・宮城・福島で震度 6 強、新幹線脱線
- ・五輪汚職、組織委元理事ら逮捕
- ・旧統一教会と政治家の関係問題が浮上
- 【番外】ロシアのウクライナ侵攻により、
エネルギー・物価高騰が進行



旧加古川図書館見学会



大阪見学会 中之島美術館



大阪見学会 LIXIL ショールーム南港



納涼懇親会 (姫路駅前)



本部特別表彰 (2 級製図講習会)

ご挨拶

第23代 青年部会長
阪口 晴彦



加古川支部創立60周年おめでとうございます。

会員として皆様と共に迎えることを誇りに思います。

私は2009年、平成21年に建築士会に参加させていただきました。

当初は右も左もわからず、人見知りの口下手な私はなかなか質問できずにいましたが、先輩方は温かく受け入れてくださり、丁寧なご指導のお陰もあって少しずつ役をいただけるようになりました。

そうすると士会での活動が楽しくなっていました。

入会11年目となる時に青年部会長という大役を1期2年務めさせていただきました。

初年度は『製図講習会』『加古川楽市』『若い夢フェスティバル』『研修旅行』『ファミリーツアー』と無事に開催できましたこと、諸先輩方のご指導の賜物と思っております。

また、全国大会は函館まで車で参加したり、近畿建築祭含め県本部の委員会など各所に参加して広く交流ができたことも今では貴重な財産となっています。

そして、2年目に差し掛かる頃に新型コロナの猛威を受け、計画していた様々な事業やイベントが、世間の情勢を鑑みて中止に追い込まれることとなりました。

そんな中でも、『2級建築士製図講習会』を開催し、京都府建築士会の製図講習会にも参加し、講師との意見交換など色々と学ばせていただきました。不完全燃焼な1年ではありましたが、先が見えない中のご協力いただきました皆様には改めて感謝いたします。

最後に加古川支部が末永く発展していくことを祈念いたしますと共に微力ではございますがお手伝いできればと思います。



第62回全国大会 北海道大会



京都 製図講習会



ファミリーツアー(ボウリング大会)全員集合



令和2年度 本部定時総会

兵庫県建築士会加古川支部創立 60 周年に寄せて

第 23 代 青年部会長
杉山 和馬



この度は、兵庫県建築士会加古川支部創立 60 周年、誠におめでとうございませす。心よりお祝い申し上げます。また、その節目の記念誌に寄稿させて頂けること、大変光栄に思ひます。

私は 2021 年度から 2022 年度の 2 年間を青年部会長として努めさせて頂きました。2020 年 1 月以降、新型コロナウイルスが国内でも広がり、その影響は 2021 年になってもまだまだ収まる様子はなく、活動の自粛が続いておりました。そのような中で行われた 2021 年の加古川楽市は青年部の方々、諸先輩方、その他ご協力頂いた皆様方の底力を見たように感じます。

新型コロナウイルスも次第に落ち着きを見せ、2022 年度は活動し易くなりましたが、諸般の事情と相まって思うような活動を行えなかった事は青年部や支部の方々には大変ご迷惑をおかけした事と思ひます。

次年度以降の青年部の方々の活動を見ますととても頼もしく、今後も活躍される事と思ひます。

未筆ながら、兵庫県建築士会加古川支部の皆様方のご発展とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせて頂きます。



加古川楽市



加古川楽市 ヨーヨー釣り準備



ファミリーツアー 大蔵海岸

支部活動 10 年の歩み (2023・2024)

◎ 2023 年 (R5 年) 度

- ・第 60 回支部通常総会 (28 名)
- ・しおかぜこみち (加古川河口) 東屋屋根
葺替え事業に着手 (本部助成地域貢献活動)
- ・滋賀見学会 (11 名)
- ・2 級製図講習会 (4 名)
- ・総会懇親会 (27 名)
- ・納涼懇親会 (16 名)
- ・ボウリング (9 名)
- ・新年会 (16 名)

青年部会

- ・加古川楽市 (延 31 名)
- ・木工体験 2 回 (延 22 名)
- ・研修旅行 (広島: 5 名)
- ・県青年委員会 50 周年式典 (5 名)
- ・新入会員歓迎懇親会 (12 名)
- ・忘年会 (9 名)



令和 2 年秋に黄綬褒章を受章された宮宅さん



東屋屋根葺替え事業に着手



総会 懇親会

2023 年役員

支部長	小西 敏文		
副支部長	吉備 考司	坂上 浩司	長尾 淳一
会計	島崎 淳二		
理事	高橋 賢吉	林 友宏	竹下 孝行
	有田 和人	石野 秀昭	杉山 和馬
	松本 有司	金尾 祥吾	東田 洋一
	太秦 篤史	速水 香織	永田 康貴
	阪口 晴彦	宮宅 勇二	永井 英三
	矢幡 稔	吉田 文男	増田 正幸
	尾瀬 くみ	高橋 功	尾瀬 耕司
	高橋 章二	島崎 淳二	

監事 古田 充 上野 孝雄

青年部会長 金尾 祥吾

国内 10 大ニュース

- ・新型コロナウイルスが「5 類」へ移行
- ・夏の酷暑が続き、全国的に電力供給が逼迫
- ・福島第一原発の処理水放出開始
- ・新型コロナワクチンの接種終了
- ・消費税の「インボイス制度」開始
- ・国内でインフルエンザの大流行
- ・将棋の藤井聡太竜王が史上初の八冠
- ・旧統一教会の解散命令請求
- ・闇バイト強盗、指示役「ルフィ」ら逮捕
- ・シンガーソングライター谷村新司さん死去
- 【番外】阪神タイガースが 18 年ぶりに日本一



滋賀見学会(ミホ ミュージアム)



納涼懇親会 (明石駅前)



みとろフルーツパーク 木工体験
(ビー玉転がし作り) ブースを出店

◎ 2024年（R6年）度

- ・第61回支部通常総会（32名）
- ・しおかぜこみち（加古川河口）東屋屋根
葺替え事業を継続（本部助成地域貢献活動）
- ・法令実務研修会（企画）
- ・2級製図講習会・製図模擬試験（2名）
- ・高砂市の池公園子供の秘密基地（10名）
- ・納涼懇親会（大型台風接近のため開催取止め）
- ・ボウリング（企画）
- ・新年会（企画）

青年部会

- ・加古川楽市（延54名）
- ・懇親会（企画）
- ・忘年会（企画）

2024年役員

支部長	小西 敏文		
副支部長	吉備 考司	坂上 浩司	長尾 淳一
会計	島崎 淳二		
理事	高橋 賢吉	林 友宏	竹下 孝行
	有田 和人	石野 秀昭	杉山 和馬
	松本 有司	金尾 祥吾	東田 洋一
	太秦 篤史	速水 香織	永田 康貴
	阪口 晴彦	宮宅 勇二	古田 充
	永井 英三	矢幡 稔	吉田 文男
	尾瀬 くみ	高橋 功	尾瀬 耕司
	高橋 章二	島崎 淳二	
監事	上野 孝雄、増田 正幸		
青年部会長	金尾 祥吾		

国内10大ニュース

- ・1/1に石川で震度7＝能登に一時、大津波警報
- ・探査機SLIM、日本初の月面着陸成功
- ・AIを活用した技術が多くの分野で急速普及
- ・秋篠宮悠仁さまが18歳を迎え、成人に
- ・新デザインの紙幣が発行される
- ・38年ぶり円安、1ドル＝160円突破
- ・日経平均株価が初の4万円台に
- ・ドジャーズ大谷翔平、史上初本塁打・盗塁（55・55）達成
- ・
- 【番外】南海トラフ地震の臨時情報（巨大地震注意）
が初めて発表される



2024年2月新年会
（新会員紹介）



第61回支部通常総会



子どもの秘密基地計画



カヤ葺きの実技体験
（京都府南丹市美山）

支部活動 10 年

第 24 代 青年部会長
金尾 祥吾



令和 5 年度から 6 年度の青年部会長を担当している金尾です。この度は加古川市支部創立 60 周年おめでとうございます。私が第 24 代目であるとお聞きしました。これまでの長きに渡る歴代の部会長に敬意を表したいと思います。

振り返れば、入会してから 10 年ほどが経ちました。

私は、創業 20 年ほどにしかならない、数名の社員からなる小さな会社に所属しており、業務内容としては、個人の顧客から直接仕事を請け負う住宅リフォームを中心としています。下請け仕事はしないため、決して仕事量が安定しているとはいえませんし、家電量販店やホームセンター、インターネット販売などの安売り業者が溢れかえる中での価格競争に巻き込まれることにより、いつも厳しい経営状況だと言えます。



加古川楽市

私が建築士会に入会しようと思った理由の一つは、そういった状況を少しでも改善できるものが何か見つければ、という漠然とした思いだったと記憶しています。

また、建築に参入する前は電気関係が専門だったという異色の経歴のため、建築に関する知識をより多く得るために、様々な講習会や情報発信が魅力だったということが、もう一つの理由でした。

そういう事情ですので、ボランティア活動に時間を割くような余裕は無く、正直なところそのつもりも全くありませんでした。

入会してすぐに、青年部会へお誘いを受けよくわからないまま活動に参加するようになりましたが、気づけば 10 年たっていたんだと思うと時間がたつのは早いものです。



木工体験

そして年齢的にも部会内で年長世代となり、部会長をできないか？という話になり、あまり気は進みませんでしたが、全員協力体制でサポートしていただけるということで引き受けることになりました。

ここまで、正直にありのままをお話するとマイナスな内容になってしまいました・・・



研修旅行 広島

とはいえ、引き受けるからにはとにかく2年間は頑張ろうという気持ちのもと、当時18名という大所帯の青年部のスタートを切ることになりました。

コロナによる自粛モードも丁度終盤を迎え、様々な集まりも元に戻りつつある中、自分が何をやる必要があるのかをまず事前に考えました。

皆が気持ちよく参加でき、士会離れを防ぐために、主に気を配っていかうと考えたのは次のような点です。

- ・それぞれの事情に配慮し、誰かが誰かに強制するような、もしくは強制されていると感じて居心地の悪い思いをしないこと。

- ・会議などには出席しなくても、いま何が行われているのかやどんなことが計画されているのか等、公平に情報が行き渡るようにすること。

また、イベント事に強制的にならない程度に声掛けをすること。

- ・特定の誰かに負担が集中しないように分散

するようにも心掛けるようにしました。

(これは、やはり仕事や家庭の都合などがあるため難しいと感じています)

また、これまでの活動以外にも何かできること、やりたいことが無いかより多くの意見をくみ上げるようにしたいとも思っています。

去年は、地域貢献活動、地域のイベントでの子供向け木工体験や、恒例の“楽市”にて広報活動、研修旅行、その他、非常に忙しい1年となりました。

今年度は地元地域において出だしの4月から雹による災害を経験し、思うように活動はできない状況となりました。

残念ながらメンバーが減り、15人でスタートを切った青年部ですが、できる範囲で昨年に引き続き活動をしていければと思っています。

私の任期も残すところ半年強となってきました。期間中の活動をスムーズに進められるようお手伝いしつつ、次の世代への引継ぎもスムーズにできるように気を配っていければと考えています。

行き届かないこと、ご迷惑おかけすることもあるかとは思いますが、引き続き宜しくお願い致します。



忘年会

「県指定文化財斑鳩寺庫裏保存 修理工事」見学会に参加して



永井 英三

令和2年1月19日（日）斑鳩寺庫裏保存修理見学会に参加しました。参加者は13名でした。この工事は、設計監理：神戸建築文化財研究所、施工：藤木工務店、施工協力：根本興業社寺にて実施されています。当日は寒さも和らぎ絶好の見学日よりとなりました。

見学会では、設計監理に直接携わっておられる加古川支部・理事の尾瀬耕司さんに、現場の案内・説明をして頂きました。

斑鳩寺は、加古川の鶴林寺と並び、聖徳太子が開かれた寺とされています。

また、私としてもなつかしいところです。というのは、この北西側にある斑鳩保育園は私の孫が3年間お世話になったところで、発表会等のイベントがあるたびに足をはこんでいました。その際に、この寺の三重の塔や聖徳殿などの屋根が目に入っていました。また2、3度拝観もしておりました。



境内の北側にある庫裏が江戸時代前期に建てられてから、370年が経過し破損が激しくなったため、御祈祷所、表門とともに文化財修理工事を行っています。平成28年度から令和3年度までの工事予定です。

現場とは別の仮設小屋に、使用されていた部材が解体され、それぞれの箇所にもとめて整理されています。

大きな素屋根で覆われた庫裏の保存解体工事の現場では、壁土が取り払われ、柱や横架材等の修理の仕方、耐震工事の様子も見ることが出来ます。上階の足場から屋根を見下ろしながら、工事の進捗状況を垣間見ることができました。この解体工事に並行して、変遷や技法についてなどの文化財調査も行われ、復原方針を検討しているとのこと。



いつも思うことですが、これらの社寺建築の保存修理工事は長期間に及ぶことが多く、工事建物の倍以上の高さのある素屋根が組まれて、風雨を避けることはもちろんのこと、換気や採光等、工事現場の環境にも配慮がされています。

(その他一般工事においても同じですが) この素屋根工事は、稲美町の業者さんの施工によると聞いています。

文化財の保存修理工事は、その建物の歴史及び解体した一つひとつの部材の痕跡から、建築当初からの変遷等を判断しながら、〈改修の進め方〉〈今後の使い方〉〈そして文化財としての価値を高めるための復原方法〉をどうするかを決定することが重要であると思います。

保存修理工事中的見学は、その現場に見どころが多いので、今後また見学できる機会があれば、より多くの参加者と共に、再度見学したいと思います。

この見学会を企画していただいた研修委員会の皆さん、また案内・説明をしていただきました尾瀬さんにもお礼申し上げます。

ありがとうございました。



南宗寺門徒会館・納骨堂見学会

増田 正幸



播州富士とも言われている高御座山、その裾野の加古川市西神吉町鼎集落にある寺院が南宗寺です。その東 300mの敷地に門徒会館・納骨堂が令和2年に新築され、令和3年になって見学会を実施しました。播州平野にある敷地から西方に向かって本堂（南宗寺）と高御座山が一直線に軸線が伸びていて、その東から西に向かう軸線に基づいて建物は計画されています。

見学会に当たっては、伝統的建物と大きく趣を異にした意匠的な工夫、それに伴う構造的な新たな試みが見られる建物であることから見学会を企画することになりました。意匠的に、門徒会館の入母屋屋根と納骨堂の方形屋根の対比、門徒会館の深い軒の出と列柱、納骨堂の軒組と外壁全面ガラス内格子組が建物の第一印象を形作ります。構造的には、深い軒の出とそれを支える複雑な構造木組（納骨堂ははね出し3段合成梁）、納骨堂籠目の格子組と方形屋根の隅木部分のはね出し等、工夫と苦勞の跡が図面と現場説明により良く理解できました。また、金物実物の展示により多くの金物が使われていることも確認できました。



設計監理をされた古田建築設計事務所の古田様から、敷地は元々田圃であり農振地域からの除外並びに開発許可申請を含め設計に相当の歳月を要したとの説明があり、設計主旨についても以下の説明がありました。『社会が少子高齢化・過疎化へと大きく変化するなか、先祖・亡き人との新しい関係を構築する為の納骨堂、古い本堂を補完し人々が集う門徒会館、寺院のあり方はどうあるべきか問いかけながら設計を進めました。納骨

堂は浄土を体現できる空間とし、門徒会館は現世をイメージする空間としました。』との趣旨解説でした。最後に、会館ホール（仏間）西窓大開口がオープンされると、高御座山が遠方に姿を現し、西方浄土を感じ取れる空間になっていることが体験できました。

社会の変化により建築に対するニーズも大きく変わってくることが予想され、変化に合わせた設計対応が今後一層必要になると考えられます。また、木造建物の需要が今後増大し、大型建物を木造とするケースも増えることが見込まれます。この度の見学会にて体験した内容を今後活かすことができたらと思います。（令和3年2月13日実施）



リモート併用研修会報告

研修委員会
委員長 林 友宏



令和2年1月から日本に上陸したコロナウィルスが蔓延することで日常生活が儘にならない時期が続く一方、ZOOMなどのオンラインで会議ができるアプリやツールが脚光を浴びてまいりました。社内や業界ではいち早く取り組んでおりましたので、建築士会での活動でも取り入れるのは容易ではないかと考えておりました。しかしながら、そうでもないことがわかったのは令和3年加古川支部研修委員会の開催をオンラインで開催する企画をした時でした。私は他団体などの会議でオンラインをよく使用していますので、私がホストをすれば問題ないですが、理事や委員の方の約半数は半信半疑でオンラインに参加するような面持ちでした。現在では問題なくできるのですがオンラインという新しい技術を習得するまでには少し時間を要したように思います。いろいろなことが可能になる事を知ってもらうためにまず、出欠簿や日程調整のアプリやリスクの少ないGoogle Formsを利用してみなさんの意見なども集約しました。

◎研修委員会の企画

令和4年1月22日
尾上公民館にて
「改めて学ぶ！一戸建て住宅の建築
物省エネ法改正と新基準」
兵庫確認検査機構
姫路本店 性能評価部
山本 薫 先生



上記セミナーをハイブリッド方式にて開催しました。

ZOOMの事務局つまりホストをするには、その場所のWi-Fiルーターの状況がいいことが挙げられますが、端末をたくさんつなぐことで逆につながりにくい状況になるなどうまく運営ができなかったなどの失敗もありました。

最近でこそ貸会議室ではWi-Fiルーターの状況がいいのは当たり前ですが、当時はまだそういう状況でないところが多くその見極めができなかったのが残念でした。

今後は少人数ではリアル参加型からハイブリッド方式参加型に移行するでしょうし、大人数だと会場費が多くかかるので完全オンラインで双方向型もできるようになり会議のやり方も多様性や包括性が一番だと思いました。



東屋再生プロジェクト

永田 康貴



加古川支部創立 60 周年おめでとうございます。

私が建築士会に入会してはや7年、そのうちの3年ほどは新型コロナによるパンデミックのため思うような活動ができず苦労した思い出があります。

この間、青年部会の定例会議にて毎年参加していた加古川楽市や FORZA のほかにできる活動を模索していたところ、加古川のしおかぜ小道沿いにある休憩スペースの東屋を、青年部の先輩方が加古川の葦を利用して10数年前に建築したそうで、その東屋の屋根材が老朽化のため崩れていると…

このままでは解体するしかない、せっかく建てた東屋を解体するのは勿体ない、自分たちの経験に生かせないかといろいろな思いが重なり、昨年より当時建築に携わった先輩方と一緒に東屋再生プロジェクトを発足することになりました。

現在も進行中で不慣れながらも青年部の皆さんとともに、お互いの長所を生かし何とか進めておりますが、4月16日の記録的な雹災害もありバタバタした1年になりそうです。

また10年後の周年記念誌に完成までの良いこと悪いことの報告も兼ねた寄稿ができることを期待し、10年、20年その先の加古川支部と支部会の皆様の発展を心より願い、私自身微力ながらもその発展に尽力していけたらと思います。



「しおかぜこみち東屋再生プロジェクト」

古田 晃久



兵庫県建築士会加古川支部創立 60 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご躍進を祈念いたします。

さて、令和 5 年度より、地域貢献活動として、「シン・ASHIGARU 隊」が加古川河川敷左岸の河口付近において行っている「しおかぜこみち東屋再生プロジェクト」について、紹介させていただきます。本事業では、加古川河川敷にある東屋の再生を目的としています。

東家が建っている加古川河川敷（本事業の対象としている東屋が位置する場所より上流）では、親水空間・オープンスペースとして活用する「かわまちづくり」等の活動が盛んに行われています。イベント性の高い活動以外にも、河川敷では 1 年を通してレガッタ・ランニング・ウォーキング・サイクリング等の活動が行われています。そのような日常的な河川敷での活動の中で、休憩場所として東屋が利用されています。

本事業の対象としている東屋は、平成 20 年度に「播州 ASHIGARU 隊」により、加古川流域の葦・竹等を用いて建てられ、竣工後に加古川市へと寄贈されたものです。完成から年月が経ち、茅葺きが劣化していく中で、休憩場所として再度利用できるような葺き替えが必要となったことから、本事業の計画が始まりました。



本事業の計画は、一年目に葺き替えに必要な長さの揃った葦を確保するため、刈り払いを行う場所の選定を行います。自然に生えている長さの不揃いな葦を、鬱蒼としている雑草と共に刈り払います。一年目に刈り払いしたものは廃棄し、二年目に長さの揃った葦を収穫し、茅葺きを行っていきます。刈り取った後の葦の成育を待つ間に、事例研究、必要な道具の準備、葺き方を学ぶ等の準備を行うこととします。



現時点は一年目で、東家に葺かれている古くなった茅の撤去と、場所の選定、一度目の刈り払いを行い、葦の成育を待っている状態です。この時間を活かし、事例研究等を行い今冬の葦の収穫に向けて、入念な準備を行っていきたいと考えています。

最後になりましたが、東屋は「潮風小道」と呼ばれる散歩道の終点に位置しており、夕日が美しく見える場所に建っています。東屋が完成したときには、夕日の美しさと水辺の心地よさを感じられる場所として、様々な人が訪れる場所となればと考えています。



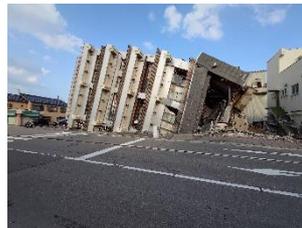
【能登半島でのボランティア活動 と技能グランプリ挑戦】

森 翔太



2024年1月1日石川県能登半島で地震が発生し、4日後に現地へボランティアとして支援活動に参加しました。現地に来ないでという報道もあり葛藤もありましたが現地に伝手もあることから何一つ現地の手を借りない装備で向かいました。現地の商工会青年部や青年会議所といった団体がすぐに活動を開始しておりそこに加わる形で支援物資の配送に参加、まだまだ支援物資の届いていない地域を中心に配送、震災発生後初めて物資が届きましたという避難所も多くありました。

すでに報道も少なくなってきましたが継続した支援をおこなっていきたいと思います。東日本大震災の際には仮設住宅の建設に従事しましたが、毎日通る道が通るたびにみると整備されていく様子、仮設住宅の建つスピードを体感し日本の底力を目の当たりにしました。



また、今年の2月23日から26日まで開催された技能グランプリでは、建築大工職種に出場しました。競技会に出場するのは13年振りです。無事に時間内に作品は完成するものの結果を残すことはできませんでしたが、挑戦する姿を家族や子どもたちに見せることで、自分の成長と可能性を伝えたかったのです。この経験を通じて、さらなる技術向上を目指し、仕事に取り組んでいきたいと考えています。



資 料 編

- 支部規約

 - 兵庫県建築士会加古川支部規約

 - 兵庫県建築士会加古川支部青年部会規程

 - 兵庫県建築士会加古川支部慶弔規程

- 支部会員名簿 2024年4月1日現在 (99名)

- 物故者

- 支部会員の推移

- 歴代支部長

兵庫県建築士会加古川支部規約

第1章 総 則

(名称及び区域)

第1条 この会は、兵庫県建築士会加古川支部（以下支部という）という。

2 この支部の区域は加古川市、高砂市、稲美町及び播磨町とする。

(目 的)

第2条 この支部は、公益社団法人兵庫県建築士会（以下士会という）の目的に従い支部の区域内において発展充実を図り、同会の目的達成に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 この支部は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 士会定款第4条第1項第(3)号から第(9)号に掲げる事業。
- ② この支部の目的を達成するために必要な事業。

(事務所)

第4条 この支部は、事務所を支部長の委嘱する住所に置く。

第2章 会 員

(会員の種別)

第5条 この会の会員は、正会員及び準会員とし、正会員を民法上の社員とする。

(会員の所属)

第6条 この支部に区域内に住所又は勤務先を有する会員及び準会員は原則として、この支部に属するものとする。

(会員の移動)

第7条 会員に移動があった場合は、士会定款第11条の2により移動があった日から7日以内に支部長に届け出なければならない。

(会 費)

第8条 この支部に所属する会員は、支部会費として年額4,800円を納入しなければならない。

第3章 役 員

(役 員)

第9条 この支部に次の役員を置く。

- 支部長 1名
- 副支部長 3名以内
- 支部理事 会員の1/3以内
- 支部監事 2名

(役員を選任)

第10条 支部長、副支部長、支部理事、支部監事は支部総会において正会員のうちから選任する。

(役員任期)

第11条 役員任期は、士会の役員任期とする。

(役員補選)

第12条 役員に欠員が生じ支部理事会が補充の必要を認めたときは、第10条の規約に準じ

補選する。

(役員職務)

第13条 支部長はこの支部を代表し会務を総理する。

2 副支部長は支部長を補佐し、支部長に事故があるとき支部長の職務を代理する。

3 支部理事は事業の執行をはかる。

4 支部監事は民法第59条の職務を行う。

(顧問)

第14条 この支部に顧問を置くことができる。

2 支部顧問は支部理事会の承認を得て支部長が委嘱する。

3 支部顧問は、支部長の諮問に応じ、かつ会議に出席して意見を述べることができる。

4 支部顧問の任期は、これを委嘱した支部長の任期に従う。

(職員)

第15条 この支部に事務局を設け職員若干名を置くことができる。

2 支部総会は支部通常総会及び支部臨時総会とする。

第4章 会議

(会議の種類)

第16条 会議は支部総会、支部理事会、とする。

2 支部総会は支部通常総会及び支部臨時総会とする。

(通常総会)

第17条 支部通常総会は毎事業年度の終了した日から45日以内に開くものとし、支部長が招集する。

(臨時総会)

第18条 支部長は次の場合には臨時支部総会を招集しなければならない。

① 支部理事会が必要と認めたとき。

② 正会員の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったとき、支部監事は民法第59条第4号により、必要があるときは総会を招集することができる。

(総会の議決事項)

第19条 次に掲げる事項は議決を得なければならない。

① 支部規約の変更

② 事業計画

③ 予算及び決算

④ 基本財産の設置及び処分

⑤ この支部の解散及び清算

⑥ 前各号に掲げるもののほか、支部理事会で必要と認めた事項

(理事会)

第20条 支部理事会は必要に応じ支部長が招集する。

2 支部理事会は支部長、副支部長、支部理事をもって組織し、会務の執行に必要な事項を掌理する。

3 支部監事は支部理事会に出席して意見を述べるができる。ただし、議決に加わることはできない。

(委員会、部会)

第21条 この支部は事業を推進するため必要があるときは、委員会又は、部会を設けることが

できる。

2 委員及び部員は支部理事会の承認を得て支部長が委嘱する。

第5章 雑 則

(補 則)

第22条 この規約の施行について必要な規定は支部理事会が別に定める。

附 則

- 1 この規約の定めのないものについては支部理事会が定めるものとする。
- 2 この規約は平成18年4月1日より施行し、従来規約は廃棄する。
- 3 この規約は平成25年4月20日より施行し、従来規約は廃棄する。
- 4 この規約は平成31年4月20日より施行し、従来規約は廃棄する。

兵庫県建築士会加古川支部青年部会規程

(名 称)

第1条 この部会は兵庫県建築士会加古川支部青年部という。

(目 的)

第2条 この部会は青年建築士のエネルギー結集し相互の親睦と向上をはかり、明日の建築士会発展の原動力となり社会に貢献することを目的とする。

(事 業)

第3条 この部会は前条の目的を達成するため必要な各種の事業を行う。

(構 成)

第4条 この部会の会員は本会の会員で原則として45才以下のものとする。

(役 員)

第5条 この部会には次の役員をおく。

部会長1名、副部会長3名以内、会計1名

(役員を選任)

第6条 役員は部会総会において候補者を出し、支部理事会の議を経て支部長が委嘱する。

(役員職務)

第7条 部会長はこの部会を代表し、部会を運営する。

2 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故あるときは部会の公務を処理する。

3 支部監事は部会長、副部会長を補佐し、部会の会務を分担処理する。

(役員任期)

第8条 支部役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。

(相談役)

第9条 この部会は本会支部理事会の承認を得て相談役を置くことができる。

2 相談役は部会務について部長の諮問に応ずる。

(会議の種類)

第10条 会議は部会総会、支部役員会とする。

(会議の議事)

第11条 支部部会総会は部会員3分の1以上の出席によって成立する。(委任状提出を含む)

2 議決は出席者の過半数により決する。

(会議の招集)

第12条 会議は部会長が召集し、役員会は必要に応じて開くものとする。

(事業の承認及び報告)

第13条 支部部会の行う事業は支部青年部役員審議を経て支部理事会の承認を得なければならない。支部部会長は本部会の事業の実施状況及び会計につき支部長に報告しなければならない。

(経費の支弁)

第14条 支部青年部会の運営費は支部費等よりまかなう。

(定款準用事業)

第15条 この会則に定める以外の事項については、本会の定款ならびに細則、その他補充規定を準用する。

(会則の変更)

第16条 この支部部会の会則は支部総会の決議により、支部理事会の承認を得て変更するこ

とができる。

附 則

この部会の会則は昭和48年4月1日よりこれを施行する。

(一部改正 平成6年5月15日 同日施行)

(一部改正 平成15年4月25日 同日施行)

(一部改正 平成18年4月28日 同日施行)

(一部改正 平成23年4月16日 同日施行)

(一部改正 平成25年4月20日 同日施行)

(一部改正 平成31年4月20日より施行する)

兵庫県建築士会加古川支部慶弔規程

(報 告)

第1条 会員、準会員又はその家族に慶弔ありたるときは、直ちに支部長に報告するものとする。

(細 則)

第2条 支部会員、支部準会員又は家族に慶弔ありたるときは、次により慶弔の意を表すものとする。

① 祝意の場合

イ. 本人に祝意を特に表す必要があるとき 金 10,000 円

② 弔意及び見舞いの場合

イ. 支部会員が死亡した時 弔電、弔旗及び金 10,000 円

ロ. 支部会員の配偶者及び血族1親等の親族が死亡した時 弔電及び金 5,000 円

ハ. 支部会員の疾病及び災厄等に対する見舞金 金 5,000 円

*ただし、第2条の②において、1ヶ月以上その情報が経過したものは除外する。

又、疾病は本人に限り、かつ原則として1ヶ月以上の療養を要した場合とする。

附 則

1 細則に定めるものについて必要が生じたときは、支部理事会において個別に協議する。

2 この細則は昭和48年5月12日より施行する。

(一部改正 昭和58年4月6日 同日施行)

(一部改正 平成5年4月23日 同日施行)

(一部改正 平成18年4月28日 同日施行)

(一部改正 平成25年4月20日 施行する。)

支部会員名簿

2024年4月1日現在

氏名	住所	勤務先	会員番号	入会年
ア行				
赤尾 資司	高砂市曾根町	(株)モア	05-0259	1992
厚海 博志	加古川市神野町石守	森下住宅建設(株)	05-0235	1989
網谷 博司	加古川市尾上町養田	(株)大和工務店	05-0298	1996
有田 和人	加古川市東神吉町出河原	有田和人建築工房	05-0322	1998
五十嵐 裕治	高砂市高砂町船頭町	(株)柴田興業所	05-0005	1984
井澤 康晴	加古郡稲美町下草谷		05-0006	1984
石野 秀昭	加古川市東神吉町西井ノ口	くらし工房	05-0415	2012
稲田 常利	加古川市別府町新野辺	稲田建築相談所 一級建築士事務所	05-0421	2014
井上 しおり	加古郡播磨町南大中	姫路ホーム(株)	05-0443	2020
岩本 泰典	加古川市平岡町土山	加古川市議会議員	05-0448	2023
植田 泰介	加古川市平岡町土山	(株)U空間設計	05-0442	2020
上野 孝雄	高砂市荒井町御旅	高砂市役所	05-0222	1987
太秦 篤史	加古川市加古川町南備後	立建設(株)	05-0413	2012
鶴鷹 聖二	加古川市東神吉町神吉	三宅建設(株)	05-0389	2007
太田 彰	加古川市加古川町中津	(株)ルート構造設計事務所	05-0380	2005
岡本 大樹	明石市貴崎	(株)池内工務店	05-0449	2023
尾瀬 くみ	加古川市平岡町新在家	尾瀬耕司・くみ建築事務所	05-0335	2001
尾瀬 耕司	加古川市平岡町新在家	神戸建築文化財研究所	05-0378	2005
カ行				
垣本 智壮	加古川市尾上町長田		05-0425	2016
柏木 一良	加古川市加古川町河原	(株)住宅性能評価センター	05-0209	1986
金尾 祥吾	明石市二見町西二見	(有)イーリンク	05-0424	2015
金澤 純一	加古川市野口町野口	(有)金澤建築設計事務所	05-0271	1994
菅 秋敏	加古川市平岡町二俣	大東建託(株)加古川支店	05-0303	1996
鬼一 恭士	三木市緑が丘町東	SHOWA GROUP(株)	05-0256	1992
岸本 誠司	加古川市新神野	誠建設(株)	05-0291	1995
貴傳名 良泰	加古川市志方町西飯坂	ミヤコ(株)	05-0440	2020
吉備 考司	姫路市別所町北宿	吉備建築設計室	05-0280	1994
木村 聡一	神戸市西区岩岡町古郷	一級建築士事務所 建築工房 SOL	05-0409	2003
窪田 満義	加古川市平荘町山角	加古川市役所	05-0036	1975
小岩 健敏	高砂市北浜町牛谷	姫路ホーム(株)	05-0444	2021
小林 誠	明石市魚住町清水	SHOWA GROUP(株)	05-0428	2018
小林 裕子	加古川市平岡町新在家		05-0437	2020
小西 敏文	加古川市平岡町新在家	(株)住宅性能評価センター	05-0048	1984

サ行

齊藤 和幸	加古川市西神吉町大国	(株)齊藤工務店	05-0416	2012
齋藤 里奈	加古川市西条山手	朝日住宅センター(株)	05-0410	2011
佐伯 孝博	加古郡播磨町西野添	県立龍野北高等学校	05-0274	1994
坂上 浩司	加古川市平岡町新在家	前川建設(株)	05-0265	1993
阪口 晴彦	加古川市平岡町新在家	山陽建設(株)	05-0401	2009
佐々木 頼孝	加古川市加古川町木村	(株)A-1設計	05-0388	2006
四宮 忠明	加古川市加古川町大野	(公財)兵庫県住宅建築総合センター	05-0059	1975
島崎 淳二	加古川市上荘町薬栗	島崎淳二建築設計室	05-0357	2002
杉山 和馬	加古郡播磨町古宮	建築工房Forest	05-0426	2017

タ行

高橋 あずさ	加古川市西条山手	のあ一級建築士事務所	05-0391	2007
高田 勝典	加古川市加古川町溝之口	(株)美和組	05-0314	1997
高田 真	加古川市山手	(株)イザワデコム	05-0364	2002
高橋 功	神戸市西区伊川谷町潤和	エコロジー環境設備(株)	05-0252	1992
高橋 和利	加古川市加古川町中津	高橋K一級建築士事務所	05-0385	2006
高橋 賢吉	高砂市西畑	高橋建設(株)	05-0238	1987
高橋 章二	加古川市加古川町大野	(株)高橋工務店	05-0432	2019
竹内 重宏	加古川市上荘町都台	竹内建築	05-0383	2005
竹下 孝行	加古川市加古川町南備後	(株)タケフジ	05-0342	2000
竹田 淳一	加古川市別府町宮田町	(株)竹田工務店	05-0234	1989
竹中 勇夫	加古川市八幡町宗佐	竹中設計一級建築士事務所	05-0384	2005
田代 稔	加古川市八幡町中西条	(株)田代工務店	05-0395	2008
橘 健三	加古川市野口町野口	橘瓦店	05-0371	2004
辰住 頼正	加古川市上荘町薬栗	辰住一級建築士事務所	05-0379	2005
田村 真一	加古川市別府町新野辺	田村真一建築設計事務所	05-0423	2015
出口 俊幸	加古川市平岡町新在家	前川建設(株)	05-0361	2002
富田 匡俊	加古郡播磨町北野添	富田林工程顧問有限公司	05-0427	2017
豊田 眞司	加古川市尾上町今福	籐豊建築設計事務所	05-0229	1988

ナ行

内藤 康男	神戸市垂水区舞子坂	ひょうご建設産業若年者入職促進協議会	05-0121	1979
中岡 英則	加古郡稲美町印南	中岡住建(株)	05-0262	1993
永井 英三	加古川市東神吉町神吉		05-0126	1974
長尾 淳一	明石市魚住町長坂寺	SHOWA GROUP(株)	05-0295	1995
永田 康貴	加古川市別府町別府	(株)宮宅建設	05-0431	2019
野島 弘通	加古川市上荘町井ノ口	(有)ノジマ設計工房	05-0281	1995

ハ行

橋野 裕司	加古川市上荘町都台	橋野一級建築設計事務所	05-0138	1971
橋本 敏文	加古川市東神吉町神吉	(株)橋本建設	05-0236	1990
林 友宏	加古郡稲美町加古	(株)林工務店	05-0377	2004
速水 香織	加古郡播磨町上野添	はやみ建築設計	05-0438	2020

東田 洋一	加古川市別府町別府	(株)村上工務店	05-0417	2013
廣瀬 弘恵	加古郡稲美町六分一	(株)タカケン	05-0445	2022
福田 栄一	加古郡稲美町国岡	(株)福田組	05-0260	1992
藤本 桂三	加古川市志方町志方町	一級建築士事務所建築工房桂	05-0276	1994
藤原 繁晴	加西市北条町東高室	前川建設(株)	05-0360	2002
藤原 秀一	加古川市志方町横大路	加古川市役所	05-0317	1998
測上 誠	加古川市加古川町粟津	オフィスフォーユー	05-0148	1974
船橋 佳照	加古川市野口町良野	船橋建設(株)	05-0224	1988
古田 晃久	加古川市尾上町安田	加古川市役所	05-0447	2022
古田 充	加古川市平岡町新在家	(株)古田建築設計事務所	05-0244	1990
マ行				
前川 容洋	加古川市新神野	前川建設(株)	05-0159	1970
前川 桂恵三	加古川市加古川町本町	前川建設(株)	05-0436	2019
前野 しのぶ	加古川市野口町北野		05-0435	2019
間嶋 總太郎	加古川市野口町坂元	一級建築士事務所 間嶋建築設計事務所	05-0158	1977
増田 正幸	加古川市西神吉町岸	(有)一級建築士事務所 アトリエフォルム	05-0396	2008
増田 雄史	高砂市阿弥陀町魚橋	(株)住友不動産	05-0450	2024
松尾 智博	加古川市八幡町船町	松尾一級建築士構造事務所	05-0407	2010
松岡 栄治	加古郡播磨町二子	松岡建築事務所	05-0404	2009
松本 有司	加古川市野口町二屋	松本組	05-0367	2003
水川 圭史	加古川市加古川町中津	(株)プランスペース	05-0408	2009
三原 延浩	高砂市中島	(株)MIHARA 一級建築士事務所	05-0412	2012
三宅 伸介	加古川市加古川町大野	三宅建設(株)	05-0312	1997
宮宅 勇二	加古川市尾上町長田	(株)宮宅建設	05-0176	1981
撫養 潤一	加古郡稲美町六分一	(株)匠建築工房	05-0376	2004
森 翔太	加古川市上荘町都台	森建築	05-0446	2022
森川 弘樹	加古川市尾上町安田	(株)新井組	05-0398	2009
ヤ行				
矢幡 稔	高砂市梅井	(株)貝塚工務店	05-0220	1987
山田 和弘	加古郡稲美町北山	住友林業ホームテック(株) 姫路営業所	05-0285	1995
山端 公久	加古川市野口町北野	(株)光和興業	05-0309	1997
吉田 文男	高砂市曾根町	(有)一級建築士事務所 アトリエフォルム	05-0201	1968

物 故 者

(2014年～2023年)

氏 名	住 所	勤 務 先	会員番号	逝去年
三村 真生	加古川市志方町永室	加古川市役所	05-0254	2018
中野 耕治	加古郡稲美町国安	(有)吉成設計事務所	05-0429	2020
相良 雅利	神戸市北区淡河町	相良一級建築士事務所	05-0049	2022
岡本 一郎	加古郡稲美町北山	岡本設計工房(株)	05-0065	2023

支部会員の推移

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
会員数	122	121	117	112	108	106	112	108	107	105
入 会	2	3	3	0	2	3	7	1	4	1
退 会	2	4	7	5	6	5	1	5	5	3

歴代支部長 1964年(昭和39年)6月20日 支部設立

代 位	氏 名	期 間	期・年
初代	栗 林 修	1964.06.20 ~ 1967.03.31	2期4年
2	神 吉 賢 一	1967.04.01 ~ 1971.03.31	1期2年
3	新 谷 正 三	1971.04.01 ~ 1975.03.31	2期4年
4	高 橋 弘	1975.04.01 ~ 1979.03.31	2期4年
5	籠 谷 辰 雄	1979.04.01 ~ 1983.03.31	2期4年
6	渡 辺 松 義	1983.04.01 ~ 1987.03.31	2期4年
7	三 宅 洋 一	1987.04.01 ~ 1991.03.31	2期4年
8	山 田 幸 夫	1991.04.01 ~ 1993.03.31	1期2年
9	武 内 重 雄	1993.04.01 ~ 1999.03.31	3期6年
10	間 嶋 總 太 郎	1999.04.01 ~ 2003.03.31	2期4年
11	宮 宅 勇 二	2003.04.01 ~ 2007.03.31	2期4年
12	古 田 充	2007.04.01 ~ 2011.03.31	2期4年
13	永 井 英 三	2011.04.01 ~ 2015.03.31	2期4年
14	矢 幡 稔	2015.04.01 ~ 2019.03.31	2期4年
15	小 西 敏 文	2019.04.01 ~ 2025.03.31	3期6年

編集後記

多くのご協力を得て、記念誌の編集を無事に終えることができました。

まず初めに、この記念誌にご寄稿いただいた皆様に心より感謝申し上げます。皆様からのご祝辞や思い出を綴り、この記念誌をつくりました。

そして、編集作業を進める中で、たくさんの写真を見返す機会がありました。その中には、支部の活動を通じて出会った多くの方々の笑顔があり、改めてその瞬間を共有できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。笑顔は、私たちの活動の原動力であり、支部の絆を深める大切な要素です。

近年、世界的に信じられない自然災害が多発し、私たちの社会は多くの試練に直面しています。変調をきたしている地球環境が少しでも良くなることを願い、表紙をデザインしました。

この記念誌が、支部の歴史を振り返るだけでなく、今後の活動への励みとなることを願っています。

60周年記念誌検討会委員一同

発行：公益社団法人兵庫県建築士会 加古川支部

編集：支部理事会 60周年記念誌検討会

(小西 敏文・吉備 考司・高橋 賢吉・石野 秀昭)

発行：2024年11月吉日

